

音楽劇の変遷を探る

上演記録からみる言語と地域の横断的研究

岡本 佳子 荒又 雄介 神竹 喜重子編

演劇や音楽は作品の上演自体が記録として「残らない」ため、その実態を知る手がかりは限られる。古代ギリシア劇の復興を目的に16世紀末のフィレンツェで誕生し、こんにちなお世界各地で上演されているオペラもその一つだ。その誕生から、いつ・どこで・どのような形態で上演されてきたのか？オペラ上演は劇場という場で、台本作家、作曲家、興行師、演出家、指揮者、美術家、演奏者、ダンサー、技術者等の大人数が関わる一大イベントだ——上演形態やその内容、頻度を決定づける諸条件や要素は無数にあるだろう。本書は主に劇場の上演記録を用いながら、17～20世紀のヨーロッパ音楽劇のいくつかのケースについて、上演傾向とその変遷を探索する試みである。



第一部 劇場とその運営方針

第一章 上演を記録しようとする意志の長い不在

—シエナ初のオペラ上演を中心に 辻 昌宏

第二章 グスタフ・マーラー 宮廷歌劇場監督の一年

—ANNO 収録の文書資料から 荒又 雄介

第三章 リストのオラトリオ《聖エリーザベットの伝説》に みる歌劇場の機会上演 岡本 佳子

第二部 レパートリーと上演傾向

第四章 都市を横断するオペラ —18世紀後半から

19世紀初頭にかけてのドイツ諸都市におけるオペラ
上演演目 大河内 文恵

第五章 私立マーモントフ・オペラの上演分析 —上演 数、チケット収益などから見出される受容傾向 神竹 喜重子

第六章 19世紀末から20世紀初頭の帝政ロシアにおける ヴァーグナー受容についての覚書 平野 恵美子

第三部 デジタルアーカイブの活用

第七章 上演演目データの整理・分類における諸課題 —18～20世紀のオペラ公演を例に

岡本 佳子、坂部 裕美子、神竹 喜重子、
荒又 雄介、辻 昌宏、大河内 文恵、
平野 恵美子、小石 かつら

第八章 日本におけるオペラ公演の演目選定の現状

坂部 裕美子

第九章 近年の音楽劇データベースの公開状況と活用

大矢 未来、岡本 佳子、大河内 文恵、
荒又 雄介

A5 判並製 232 ページ 定価2,530円(税込)

2025年4月発売

発行：神戸大学出版会 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学社会科学系図書館内 TEL078-803-7315 FAX078-803-7320

発売：神戸新聞総合出版センター 神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル9F TEL078-362-7138 FAX078-361-7552